

農繁期

レポート

令和5年 4-5月号

ニールファーム

オーナー
産地
水田面積
保証量
形態品種

株式会社 新流
三重県伊賀地区
9.0アール
玄米252kg
無農薬栽培コシヒカリ



生産者 ツライフ農園:北出茂樹さん

久しぶりの田植え体験、それも100名余りの体験は私にとって初めてであり、何らかの事故が起きないか心配でした。しかし、皆様が植えている姿や笑顔で心配が消え、私自身も皆様の楽しい輪にすることが出来ました。ありがとうございました。

さて、今年天候にも恵まれ水も豊富にあり、計画通りに田植えを終えることができました。植えたばかりの弱々しい苗がしっかり天に向かって立ち、地に根を伸ばしており、分けつも進んでいます。これから田の中の様子が一気に変わってくるでしょう。

4月～5月の作業内容 (土づくり時期:2月頃)

1. 土づくり

「良質米は土づくりから」と言われますが、土壌改良剤として「もみ殻くん炭」という昨年収穫した米のもみ殻を炭にした資材を用いています。田から出たものを田に戻すので、良い循環を生み出し、かつ土も肥沃にします。



もみ殻くん炭の散布

2. 苗づくり (育苗)

種もみを消毒し、水に浸して発芽を促します。温度と水管理が非常に重要な作業となります。植えつけに最適な苗の状態は12～13cm、2.0～2.5葉期(葉が3枚弱出ている状態)です。健全な苗づくりが欠かせません。



苗箱を並べて作業します

3. 荒起こし・代かき

昨年稲を収穫した田んぼの土をひっくり返してほぐし(荒起こし)、水を入れて機械でかき混ぜて泥状態にする「代かき」を行います。この作業により雑草の発生を抑え、苗を植えやすることができます。



代かき (表面を平らにする)

4. 田植え

通常、代かき後5～6日後を目安に田植えを行います。1株に苗を3～4本、1坪あたりに約50株を基準にして植えます。しっかりと均平が取れていると、苗の植え付け状態も良くなり高品質なお米が収穫できます。



田植え